

平成 24 年 9 月 25 日

津市総合計画審議会  
会長 武田 保雄 様

一志地区地域審議会  
会長 井上 勝 司

津市総合計画後期基本計画の策定に係る意見・提言について

現在、市で進めている津市総合計画後期基本計画の策定に係り、本審議会では今後の一志地域のめざすべき方向性等について協議を行い、以下のとおり、同計画の策定に当たっての当地域からの意見・提言をまとめましたので、同計画に係る津市長への答申においては、十分尊重していただきますようお願いします。

#### 記

- 1 一志地域がめざす姿として、次の目標を後期基本計画に明記されたい。

#### 【目標】

近年の世界的な経済状況の悪化、急速な高齢化や雇用不安、さらに地球規模での環境への意識の高まる中、国、地方においては、地方分権と地域主権型社会への移行を進めており、私たちを取り巻く環境は大きく変化し、今後も生活様式の変化に伴うニーズは、多様化、高度化することが予想されます。

このような中、私たちのまちにおいても、地域住民が自らの判断と責任の下に、地域が抱える様々な課題に取り組めるような地域づくりを進めていかなければならないと考えます。

さらに当地域は、これまで自然と地域、産業と生活空間が調和したまちや、福祉・教育・防災・文化のまちづくりに力を入れ、とことめの里一志の整備・学校整備や、ケーブルテレビシステム事業など施策を展開してきました。

平成 17 年度には、とことめの里一志周辺の土地を購入しており、これを活用してとことめの里一志周辺整備としたまちづくりを進める必要があります。

将来、住民一人ひとりが輝き、一志に住んでよかった、今後も住み続けたいと思えるまちづくりが大切です。

これを実現するためには、とことめの里一志周辺の市有地を有効活用し、体育館・消防・防災施設としての整備や、小学校の再編に伴う校舎への新設道路整備、また、温泉施設の市場調査を含めた経営改善を行い、地域の活性化を図らなければなりません。

災害に強いまちづくりとして、自主防災組織の強化を図り、防災対策を進めなければなりません。

特に、水害が懸念される地域は、河川改修を含め早急な対策が必要であります。

また、農業の活性化については、農業経営基盤の整備強化を進め農家の経営規模を拡大し、効率的で安定した農業を目指し、将来の担い手となる元気な農業後継者を確保し、獣害対策にも取り組み、さらに、農地は、生産物を作るだけでなく、景観がもたらす癒しの効果、水源の涵養など環境保全も担っていることを強く認識しなければなりません。

これらのことを、行政と市民が共通の現状認識に立って共有しながら、地域の様々な力を結集して、とことめの里一志を中心とした自然と地域が調和したまちづくりを目指します。

## 2 地域課題については、次の点に留意されたい。

とことめの里一志周辺整備については、市有地の立地条件等勘案し、目標に掲げた施設の内、何を住民が求めているかを見極め整備されたい。

とことめの里一志周辺の自然環境を活用し、修景池周辺の桜を利用した桜祭りや、子どもから大人まで幅広い世代が楽しめるイベントなどを企画し集客を図り、温泉施設の経営改善を図られたい。

災害に強いまちづくりについては、東日本大震災の教訓を受け、自主防災組織の強化を図り、震災・水害に対応できるまちづくりを進めなければなりません。特に波瀬川の河川改修は早急に取り組まれたい。

農林業の活性化においては、一志米で有名な米どころではあるが、農家の高齢化に伴い担い手不足が進んできており、耕作放棄地が増えていく状況であります。そのため、担い手に農地の利用集積を図り、新規就業者担い手育成に力を入れ、認定農業者や集落型経営体への推進を図り、より安定した経営規模拡大と経営確立、さらに、耕作放棄地対策として市独自の補助対策を図られたい。

また、獣害対策については、地域一帯での取組や猟友会の育成を図り駆除を進め、獣害対策補助金においては、交付要件を小規模農家でも対応できるように見直されたい。

## 3 地域かがやきプログラムについては、次の施策を掲げられたい。

- (1) 一志地域の中心的施設である「とことめの里一志」への来館者及び地域住民の憩いの場の提供、温泉集客の一環としての活力ある温泉ゾーンの形成、景観を利用したイベント等の開催に資する施策。
- (2) 地産地消を推進し、望ましい「食」のあり方について学び、地元特産品の消費の拡大及び生産性の向上に寄与する施策。
- (3) 地域住民とのふれあいの場、雲出川流域の環境保全、保健福祉の充実、地域産業の振興及び地域の活性化、地域力向上に資する施策。